

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：31304

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K10897

研究課題名(和文)入院治療中の精神病性障害を有する患者のパーソナルリカバリーを規定する要因について

研究課題名(英文)Factors related to personal recovery for inpatients with psychotic disorders

研究代表者

光永 憲香(Mitsunaga, Norika)

東北福祉大学・健康科学部・准教授

研究者番号：30431597

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、精神病性障害を有する患者のパーソナル・リカバリーの指標が、入院の間にどのように変化し、その変化が精神症状や、自尊感情の高さや自己効力感の高さとどのように関連しているのかについて調べることである。結果、研究に同意し評価を行った対象者は当初38名、最終的な研究参加者は全員で34名(89%)であった。本研究の対象者においては、入院中に精神症状は大幅に改善したが、パーソナル・リカバリー、自己肯定感、自尊感情に有意な変化は見られなかった。この研究では、パーソナル・リカバリーにおける変化と、陰性症状の改善、または自己効力感と自尊心の向上との間に縦断的な相関関係があることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、入院中の精神病性障害を有する患者のパーソナル・リカバリーの指標の変化について明らかにすることができた。本研究の対象者においては、入院中に精神症状は大幅に改善したが、パーソナル・リカバリー、自己肯定感、自尊感情に有意な変化は見られなかった。しかし、自尊心尺度における肯定的な変化と、パーソナル・リカバリーの指標におけるの間には相関関係などは見られた。この研究では、パーソナル・リカバリーにおける変化と、陰性症状の改善、または自己効力感と自尊心の向上との間に縦断的な相関関係があることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：In the end of the study, 34 individuals with psychotic disorders completed the assessments. No significant changes were found in personal recovery, self-efficacy, and self-esteem, although clinical symptoms significantly improved. Significant correlations were observed between positive changes in the Recovery Assessment Scale and improvements in negative symptoms; between positive changes in the General Self-Efficacy Scale and those in personal recovery assessed with the Questionnaire about the Process of Recovery, Recovery Assessment Scale, and Self-Identified stage of recovery-A; and between positive changes in the Rosenberg Self-Esteem Scale and those in the Self-Identified stage of recovery-B. This study revealed longitudinal relationships between changes in personal recovery and amelioration of negative symptoms or enhancement of self-efficacy and self-esteem in individuals with psychotic disorders through hospitalization.

研究分野：精神看護学

キーワード：精神病性障害 パーソナルリカバリー 入院 規定要因 看護師

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

統合失調症をはじめとする精神病性障害を有する患者において、近年は、症状の改善や機能の改善を指す「クリニカル・リカバリー」と、主体的で満足できる生活を送ることなどを指す「パーソナル・リカバリー」とが区別して捉えられるようになってきており、特に「パーソナル・リカバリー」についての関心が高まってきている。しかし、入院中の患者のパーソナル・リカバリーの過程やそれと関連する因子については、十分に明らかにされていない

2. 研究の目的

本研究では、精神病性障害を有する患者のパーソナル・リカバリーの指標が、入院の間にどのように変化し、そこでみられた変化が、精神症状や自尊感情の高さや自己効力感の高さとどのように関連しているのかについて調べることを目的とした。

3. 研究の方法

対象者は、A 県内の 3 つの精神科病院のいずれかの急性期病棟に入院を開始した者の中からリクルートされた。パーソナル・リカバリー、精神症状、自己効力感、自尊感情について、入院後と退院前の 2 回評価を行い、パーソナル・リカバリーの指標が縦断的に改善するかについて調べ、パーソナル・リカバリーの指標の改善度と、入院時の精神症状、自己効力感、自尊感情およびこれらの指標の縦断的な改善度、入院回数との相関について調べた。また、パーソナル・リカバリーの指標およびその改善度が、入院が自発的入院であったかあるいは非自発的入院であったかで異なるのかどうかについて調べた。

4. 研究成果

研究に同意を得た 34 名を対象とした(表 1 参照)。精神症状が改善したにもかかわらず、パーソナル・リカバリーの指標は、入院時と退院前間で有意な改善は認められなかった(表 2 参照)。一方でパーソナル・リカバリーの指標の改善度には個人差があり、陰性症状の改善度、自己効力感の改善度、自尊感情の改善度との間に正の相関が認められた。また、パーソナル・リカバリーの改善度と入院時のパーソナル・リカバリーの程度との間に負の相関が認められた(表 3 参照)。また、入院が自発的入院であったかあるいは非自発的入院であったかでパーソナル・リカバリーの指標の改善度には有意な差は認められなかった。

パーソナル・リカバリーと、陰性症状、自己効力感、自尊感情との関係は、先行研究で横断的に示されていたが、本研究の結果、これらが入院患者において縦断的にも関連することが示された。これらの指標が改善するよう意識されたケアが提供されることによって、精神病性障害を有する患者のパーソナル・リカバリーが、入院によって達成されやすくなることが期待される。

表 1 参加者の基本情報 (n=34)

	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
年齢(歳)	44.6	45.0	11.2	27	63
罹病期間(年)	16.2	12.0	13.3	0.1	45.0
入院回数(回)	4.0	2.0	4.0	1	18
入院日数(日)	81.9	85.0	15.3	51	128
入院日から入院調査日までの日数(日)	28.7	26.0	12.3	8	57
入院日から退院調査日までの日数(日)	77.3	78.0	14.1	50	126
調査の間隔(日)	48.6	49.0	15.4	21	98

表 2 入院時から退院前の間でのパーソナル・リカバリーおよび他の指標の変化および Wilcoxon の符号付順位検定の結果

	入院時		退院時		有意確率
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
QPR	76.7	12.8	78.8	11.8	0.11
RAS	84.1	11.7	83.6	14.7	0.30
SISR-A	3.0	1.1	3.0	1.1	0.67
SISR-B	15.5	3.9	15.8	4.4	0.30
PANSS 陽性	17.5	3.7	13.2	4.7	< 0.001***
PANSS 陰性	18.4	3.5	14.6	4.4	< 0.001***
PANSS 総合	39.4	5.1	30.9	7.4	< 0.001***
PANSS 合計	75.4	11.0	58.7	15.1	< 0.001***
GSES	7.2	3.5	6.9	4.1	0.53
RSES	24.8	4.2	25.0	4.6	0.32

GSES: General Self-Efficacy Scale; PANSS: Positive and Negative Syndrome Scale; QPR: Questionnaire about the Process of Recovery; RAS: Recovery Assessment Scale; RSES: Rosenberg Self-Esteem Scale; SD: standard deviation; SISR-A: Self-Identified stage of recovery Part-A; SISR-B: Self-Identified stage of recovery Part-B.

*は $p < 0.05$ 、**は $p < 0.01$ 、***は $p < 0.001$

表3 入院時から退院前の間でのパーソナル・リカバリーの指標の変化量と各指標との Spearman 順位相関解析の結果

	QPR 変化量	RAS 変化量	SISR-A 変化量	SISR-B 変化量
PANSS 陽性変化量	-0.09	-0.15	0.22	-0.08
PANSS 陰性変化量	-0.31	-0.35*	0.13	-0.18
PANSS 総合精神病理変化量	-0.12	-0.24	0.07	-0.22
PANSS 合計変化量	-0.19	-0.25	0.15	-0.21
GSES 変化量	0.49**	0.39*	0.37*	0.32
RSES 変化量	0.29	0.29	0.19	0.47**
入院時 QPR	-0.42*	-0.30	-0.13	-0.23
入院時 RAS	-0.12	-0.37*	0.16	-0.11
入院時 SISR-A	-0.31	-0.31	-0.67**	-0.24
入院時 SISR-B	-0.40*	-0.36*	-0.12	-0.47**
入院時 PANSS 陽性	-0.25	-0.12	-0.03	-0.14
入院時 PANSS 陰性	0.02	0.05	0.00	-0.13
入院時 PANSS 総合精神病理	-0.19	-0.04	-0.03	-0.06
入院時 PANSS 合計	-0.13	-0.01	0.04	-0.06
入院時 GSES	-0.13	-0.16	-0.10	0.08
入院時 RSES	-0.26	-0.33	0.05	-0.28
入院回数	-0.16	-0.14	-0.06	-0.10

GSES: General Self-Efficacy Scale; PANSS: Positive and Negative Syndrome Scale; QPR: Questionnaire about the Process of Recovery; RAS: Recovery Assessment Scale; RSES: Rosenberg Self-Esteem Scale; SISR-A: Self-Identified stage of recovery Part-A; SISR-B: Self-Identified stage of recovery Part-B.

表内の値は、Spearman の相関係数 () *は $p < 0.05$ 、**は $p < 0.01$ 、***は $p < 0.001$

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Norika Mitsunaga-Ohmuro , Noriyuki Ohmuro	4. 巻 8;21(1)
2. 論文標題 Longitudinal changes in personal recovery in individuals with psychotic disorders through hospitalisation in a psychiatric ward: preliminary findings	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Psychiatry .	6. 最初と最後の頁 オープンアクセス
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12888-021-03347-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 光永憲香
2. 発表標題 入院中の統合失調症を有する患者のパーソナルリカバリー促進支援 自己効力感や自尊感情と患者本人のストレングスの数、サポートをしてくれる人の数との関連性について
3. 学会等名 第53回 日本看護学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉井 初美 (Yoshii Hatsumi) (10447609)	東北大学・医学系研究科・教授 (11301)	
研究分担者	大室 則幸 (Ohmuro Noriyuki) (60632601)	東北大学・大学病院・助教 (11301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------